

眠った文具ネパールへ

南区の親子、京都経済短大に寄贈



実家の文具店に眠っていた大量の筆記用具を寄贈した深見さん(右)と塚本さん(左)京都府西京区・京都経済短大

文具を子どもたちに手渡している。優美さんは高校の後輩の塚本明美さん(60)と西京区IIが発行するニュースレターを通し、この取り組みを知った。

寄贈した文具は新品の鉛筆や学習ノート、定規など段ボール七箱分、優美さんと塚本さんの二人で短大に届けた。

来年二月に学生がネパールを訪れ、現地の小学生に手渡す予定で、優美さんは「父の思いが詰まった文具が海を渡り、活用されることは本当にうれしい」と喜んでいる。

(柿木拓洋)

ネパールの子どもたちに文具を届ける活動を続けている京都経済短大(京都市西京区)にこのほど、大量の文具が寄贈された。短大の取り組みを知った市内の親子が、文具店の実家に眠るノートや筆記具などを役立ててほしいと提供した。

段ボール7箱分

男さんは八年前の交通事故で重傷を負い、経営する文具店を閉店した。再び店に立つことを夢見てリハビリを続け、商品を処分せずに残していたが、優美さんから短大の活動を聞き、文具の寄贈を決めた。

8年前、事故で閉店

活用に喜ぶ

南区吉祥院の主婦深見優美さん(65)と父の藤男さん(82)。藤

原隆信准教授のゼミの学生が二〇〇一年からネパールの教育支援のために